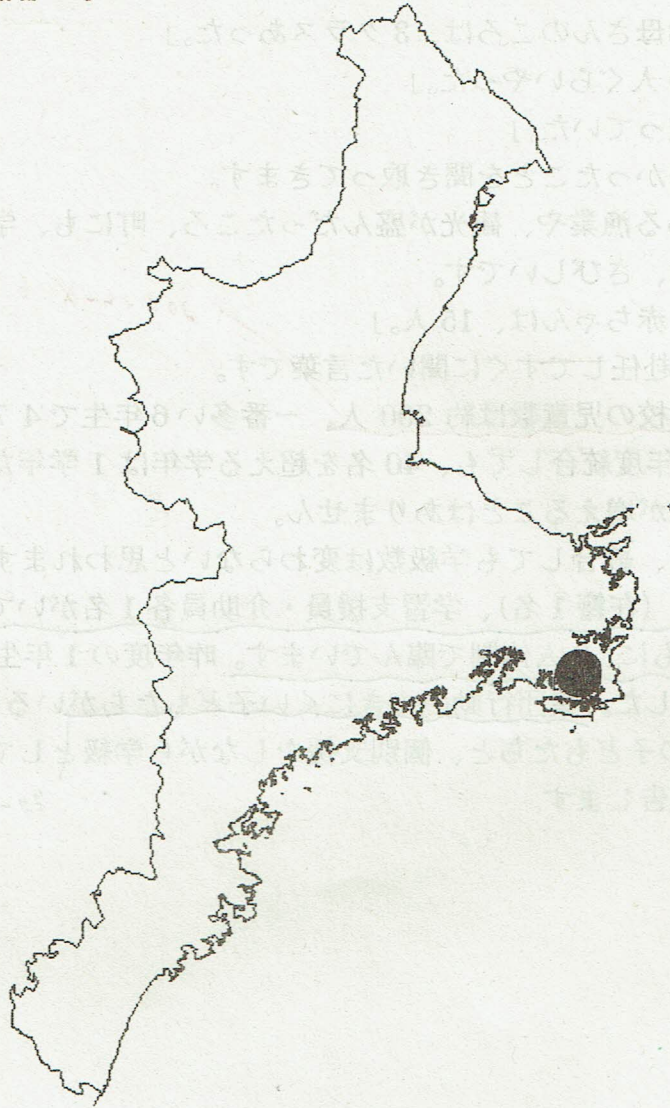


①

歴教協北海道大会 第21分科会「障がい児教育」 「みんなで大きくなろう」

国土地理院承認 平14総復 第149号



三重県

三重県志摩支部

田畑 美代子

(浜島小学校)

はじめに

今年、浜島小学校は、長い歴史の最後の年を迎えています。来年度は近隣の小学校と統合し、新しい「浜島小学校」になります。3年生の子どもたちと、「昔の浜島小学校調べ」をしていると、約30年の間に、子どもの数が3分の1に減ってきたことがわかります。

「お父さんやお母さんのころは、3クラスあった。」

「ぜんぶで700人ぐらいやった。」

「教室ぜんぶ使っていた。」

など、子どもが多かったことを聞き取ってきます。

地域の産業である漁業や、観光が盛んだったころ、町にも、学校にも活気がありましたが、今は、さびしいです。

「去年生まれた赤ちゃんは、15人。」

これは、3年前に赴任してすぐに聞いた言葉です。

現在、浜島小学校の児童数は約200人。一番多い6年生で47名、少ない学年は27名です。来年度統合しても、40名を超える学年は1学年だけで、いわゆる通常学級の学級数が増えることはありません。

特別支援学級も、統合しても学級数は変わらないと思われます。この学校に、特別支援学級が1（在籍1名）、学習支援員・介助員各1名がいて、ことしの1年生は29人の子どもに、3人体制で臨んでいます。昨年度の1年生は、27人の子どもに、2人体制でした。集団行動のできにくい子どもたちがいるのです。

昨年度、27人の子どもたちと、個別支援をしながら学級としてのまとまりでやってきたことを報告します。

1、放課後

ある水曜日、校外で昨年度担任した子どもたちの一団に出会った。2人は自転車、2人は徒歩（というより走っている）の4人組。自転車の2人は、ヘルメットをかぶっていないので、

「ヘルメットは？」

と、聞くと、

「ないよ。」

「家に忘れた。」

と、そんな細かいことほっといて、という感じ。

「自転車に乗るときは、ヘルメットかぶらないと、あぶないよ。」

と、注意しながらも、次の遊び場を目指して走っていく後姿を見送りながら、「いい感じ。」

と、思っていた。今年の今頃だったら、この光景はなかった。

2、出会い

「来年、入学してくる子どもたちのなかに、小学校生活に適応できにくいと思われる子どもがいる。幼稚園での様子を見に行ってほしい。」

という校内の特別支援教育担当者の言葉に、幼稚園に出かけた。ちょうど給食の時間で、子どもたちは、ランチルームで、それぞれに席につき、小グループでカレーを食べていた。献立がカレーだったせいかな、子どもたちは小グループでおしゃべりしたり、おかわりしたりしながら、食べており、特別に困った様子もない。片付けの済んだ子から、教室に戻り、ずきな遊びを始めた。子どもたちの後から、ついていくと、

「なあ、なあ・・・」

と、話しかけてきた2人組みがいた。自分たちがしている遊びのことを話しに来たのだ。初対面にもかかわらず、親しげに話しかけてきて、こちらの問いかけにも答えてくれる。会話が成立するんだなと感じた。

3、入学式

わたしの中で、予定外の1年生担任。学級担任としての1年生担任は、10年以上も前のこと、イメージがわからない。入学式までにどんな準備をすればいいかも忘れてしまっていたが、とにかく沢山の物に名前を書いた。入学式の前日、式場の準備も整ったところで、Aさんが、保護者とともに学校に来てくれた。初めてのことには戸惑うことが多いので、リハーサルをしておくことになっていた。会場に案内し、席についてもらい、式次第を簡単に進めた。1年生一番の見せ場は、呼名と返事。「Aさん。」と呼んだら、「はい。」と返事して立つことができた。

式当日も、順調に進み、教室で保護者とともに話を聞いてもらい、記念撮影をして、初日は終わった。

オの
締め

4、注意は、先生がします

黒板に落書きをしていた子に、子どもたちが注意したら、黒板けしで頭をたたかれるということがあった。よく聞いてみると、休み時間が終わったのに、黒板に絵を書き続けている子がいて、その子に、

「いかんよ。」

と、声を掛けたという。そして、一人ではなく何人もが同じことをいい、一度でなく二度三度と言ったという。書いていた子にとっては、多くの子どもたちから責められて、逆切れしてしまったというところ。自分が悪いとわかっていても、何度もいわれると、いやになるということを確認、誰にもありがちなことなので、注意の約束を決めた。

- ・友だちがいけないことをしていると思ったら、注意する。
- ・注意のときは、「もう、勉強の時間だから、黒板に絵を書いているはいけないよ。」というように、丁寧に言う。
- ・注意は、1回だけにする。
- ・だれかが注意したら、同じことではもう注意しない。
- ・注意された人は、1回で聞く。
- ・1回で聞かなかったら、先生に言う。

Aさんには、友だちのことが気になって、つい口出ししてしまうということがよく見られた。

「〇〇くん、・・・したらいかんよ。」

「先生〇〇くんが・・・しとる。」などなど、人のことはいいから、自分のことをきちんとしてほしいと思うことがたくさんあった。また、注意のつもりなのだろうが、しつこく繰り返すこともあったので、

「言うのは一回だけ。注意は先生がします。」

と、ストップをかけるようにした。ほかの子にも、同じように言い続けた。注意から言い合いになったり、ときには暴力になっていたりしたのを減らすことができたと思う。

5、今日の予定

1週間の予定を前週の金曜日に通信で知らせ、当日の朝は、一日の予定を黒板の端に書いた。授業の教科と、休み時間と、特別なことがあれば、見たらわかるようにして、終わると、消していった。Aさんも含めて、つぎの見通しが立たないと、不安になったり、つぎの行動に移れなかったりする子がいたからである。授業中に、突然に、

「つぎの時間は何。」

と、聞いてくる子がいた。黒板を示してやると、作業の続きに戻ったり、話し合いに戻ったりできた。数字が読めるようになってくると、時計を使って、

「長い針が5までいったら、休み時間。ここまでは、がんばるよ。」

と、話すと、落ち着きが出る子もいた。黒板に、^{強化}強化と一緒に、数字も書くと

「1まで」「2まで」

など、そこまでは、勉強なんだとあきらめる？ようになってきた。休み時間は、楕円で示していたが、幅を広げたり狭くしたりして、時間の違いを表した。そして、2時間続きになったり、行事等で休み時間がなくなるときは、点線にして、その分は別のところの幅を広くしたりした。昼休みは、給食の片付け次第ということも、幅を変えて示していった。1日の中での時間割変更は、この方法でスムーズにいった。入れ替わりの矢印を付けることで、混乱もなくできた。

注意の仕方、予定のほかに、学級全体でやったことは、丁寧な言葉を使おうということ、詳しく話そうということ、そして、「OK」「NO」カード、学校の約束を度々確かめること。例えば、そうじのときに、「ちゃんとして。」というのではなく、「今日は雑巾当番だから、雑巾で拭いて。」とか、「この場所をふいて。」あるいは、「いかんよ」というのではなく、「教室ではボールけつたらいかんよ。」と。また、「ありがとう。」や「たすかる。」「いっしょにしよう。」などの言葉はどんどん使うようにしようと言ひ、わたしも使うようにした。「OK」「NO」カードは、指示を出した後などに、できている子に「OK」と、合図を送るように、「NO」は逆に。なるべく「NO」は、本人にだけわかるように示した。学校の約束については、教室に張りだして、「〇〇するのが、決まりです。」と声かけをした。Aさんについてはあまり効果がなかったが、別の子には効いた。朝のかぼんの片づけなど、みんながするようになると、一人だけしないというのもなくなくなった。

Aさんの保護者は、1週間の予定を見て、初めてのことは、なるべく家でやってみようにしてくれた。国語の本読みや、算数の勉強も先行して学習してくれた。同時に、定期的に療育に通い、薬を飲むこと、行動チャート（O×カード）を利用することで、Aさんは、とても落ち着いて学習できていて、学習中に困ることは少なかった。Aさんの行動チャートの目標は、学校から保護者にあてた連絡の内容を元に、療育を受けていた機関で作ってもらった。Aさんは、3月に小児科で発達診断を受け、4月からは、その小児科併設の療育機関にも週に1回通っていた。

保護者とのやり取りは、次のようなものである。

T「勉強は、とりかかりがおそいです。まず、『したくない。』と行って、少しすねてからはじめます。何をやるのか、周りが半分以上はじめてから出ないと、することが分かりにくいようです。『わからない。』が、『したくない。』なのだと思います。これから、なるべく事前に、何をやるか話していきます。Bさんと仲良く本を読んでいたら、けんかになり、『パンチ』と、出した手がBさんの顔に当たりました。いけないことは、わかっていて、あとからMさんに謝りましたが、まず、手を出さないようにしていかないと、思いました。」

保「B君との件は、家でもゆつくりと話をしましたが、今までも、何度か同じようなことがあったので、そのつど話をしていくしかないのかと思うのですが、話していくのでいいのか、不安です。勉強のことは、家でも何か事前にやっていくこととか、帰ってきてからやることがあったら、教えてください。」

T「Bさんのところから連絡がありました。Aさんとは、とても中がよくて、1番の親友で、『大好き。』と、言っているそうです。これからも、その時、その時で話していかななくてはと思います。私は、その場で注意したり、話をしたりして、また連絡します。家でも、もう一度、同じように話をしてください。根気よく行きましょう。今日から宿題があります。まず、いつするかということを決めて、いつも、同じような時にできるようにして下さい。宿題をしているときは、そばで見守ってください。先回りして、口出ししないようにして下さい。間違ったときに、すぐその場で、『だめ』といってやり直しさせるのは、むずかしいと思います。『お母さんが見て、まちがっていたら、直すんだよ。』あるいは、『先生に出して、まちがったら、○になるまで直すよ。』ということ、先に約束しておくといいかと思います。まずは、宿題をする習慣をつけると思ってやっていきましょう。」

保「Bくんとは、本当に仲良しなんですけど、なんであんなにAが意識してしまうのか、不思議です。家にもお邪魔したりして、よく遊ぶのですが……。他の友だちとの関係はどうなのでしょう。Kから、『今日は、○○君にいやなこと言われた。』とか聞くのですが、ちょっとしたことで、泣いたりしていませんか。今日の宿題は、学校から帰ったらすぐにやり始めて、色塗りまで楽しそうに自分でやっていました。少し線から出たりしていましたが、自分から進んでやったことをほめました。今日の授業中は、何も言わずに取り組めたでしょうか。家で『みんなと一緒に勉強はやるものなんよ。』と、声をかけたのですが、まだ『やりたくない。』とか言ってますか。まちがったときには、『いや』と言わずに直す約束、授業も『やりたくない』と言わない約束はしました。またなにかあったら、教えてください。」

T「Bさんにはとくにそうですが、ほかの友だちのことも、欠点はよく見えるようで、すぐに注意しがります。ほかの子にとっては、『余計なお世話。自分は……。』というところでしょうか。泣くというよりは、ほかの子から注意されるのがきらいで、注意されるとおこったり、相手をたたきにいたりということもあります。周りの子にも、注意の言葉は、やさしくしようと、言い続けています。Aさんには、注意の言葉が、おこってきたと聞こえるようです。ほかの子が、かかわりをなくさないようにしながら、いい声かけになるようにしていきたいと思います。そのためには、まず大人からと、思うのですが、やらなければならないときに、優しく言っているとできなくて、つい『……。します。』と、きつく言います。子どもたちは、その様子も見ていて、難しいところです。授業は、すぐに取り組むのは、難しいときもあります。今日は、国語がそうでした。休み時間の友だちとの関係など、すぐに切り替えるのは、難しいようです。でも、やらずに終わることはなく、やることは、やっています。まず、そこは認めていきましょう。図工の粘土は、楽しんでやっ

ていました。休み時間に、私たち大人と遊びたがります。一緒に遊びながら、もう少ししたら、ほかの子も一緒に遊びたいと思います。」

保「……取り組みがむずかしい勉強の様子や友だちのことは、私が聞かないと話してくれませんか。おこられると思うのでしょうか。わたしは、そういうつもりで言っていないのですが、やはり、友だちに言われるのと、同じでしょうか。何かいうと、怒られたと、思ってしまうのでしょうか。友だちとも、もう少し上手にできるといいのですが。」

T「『今日は友だちと遊びました。』・本人が、うれしいのか、書いてほしいということです。」(このときから、大きく変わっていったように感じる)

そして、4月23日から、この連絡を基にして、療育機関で3つの約束をするようになった。その約束は、①友だちに注意しません。②「いやだ」「したくない」といいません。③「つかれた」「もういやだ」といいません。この約束のうち、特に①が効果的で、これから友だちとの関係がよくなり、いっしょに遊べるようになってきた。そこからの成長は目覚しかった。10月には、授業中に気になるのは、少しおしゃべりすぎることと、人の話が聞けないときがあること(Aさんだけに限ったことではないが。)ぐらいで、3つの約束も、少し変わってきて、①友だちに注意しません。②「いやだ」「したくない」「つかれた」・言いません。③日直の話を聞きます。勉強中におしゃべりしません。となった。(別紙)療育機関との連携で、学校・家庭・療育の三者が同じように対応することになり、とても落ち着き、順調に学校生活を送ることができた。本読みや計算練習で自信を持ち、授業中に「やりたくない」という言葉も聞かれなくなった。

6、学校体制の中で

特別支援学級があり、1年生には学習支援教員がいるということもあり、学校全体で支援の必要な子どもたちのことを考え、次に引きついでいくために、個々の子どもについて気付きシートが作成され、その交流がされた。(別紙)そして、誰もが同じように子どもたちに接していけるように、全体への発信の場が与えられ、協力してもらうことができた。(別紙)

以上のことを、まとめると、Aさんを意識しての対応は、次のようになる。

- ・注意(否定的な言葉)をかけるのを減らす。
- ・見通しを持たせる。
- ・丁寧な言葉がけで、具体的な行動を示す。
- ・「それでいい」という合図を送る。(なるべく細かく)

学級で

・薬と、療育相談

・先行学習

家庭で

- ・個別の気付きシート
- ・対応の仕方の発信 学校で

7、転機

1月の気付きシートに、こう記入した。「療育機関に行きたくないと言っている。自我が目覚めてきて、言うことを聞かない部分もでてきているので、これから、本人に納得させることが、難しくなり、必要になってくる。『こわい』という感覚だけでは、規制が効かなくなる。」

とても順調に着ているように見えていたが、約束が守れたら○、守れなかったら×で、○が多いとほめられ、×が多いと叱られるということや、約束を本人が納得できなくなつて、○×の効果が薄れてきたように感じた。本人が成長してきたのだと思った。

同じころ、保護者から療育相談機関に通うのをやめたいとの相談があった。療育機関のやり方について、父親が1年生の子どもに対して厳しすぎる、脅しであると反発していること、本人もいやがってきたこと、母親も、このままでいいのかと疑問があるし、自分自身も苦しいことなどが言われた。

ちょうど同じように、(このままでは無理が出てくる、今の方法では限界がある、子どもの成長で、今のやり方に対して、反発する気持ちが出てきている)感じていたので、療育・相談機関をかえることも含めて、見直すことになった。(1月15日)翌日から、薬を飲まずに登校するようになり、授業中のおしゃべりが止まらず、「できない」「やりたくない」など言い出しすねることもあった。にがてなことをするとき、つききりだで、そばを離れようとする、「いかんといて。」という言葉が出た。集会のときに、寝そべるという行為もあった。それまでよりも、ルール違反的な行動(×がつくような行動)が増えた。そのときの言葉に、「ぼくのブレーキがこわれとる。」「へんなかんじがする。」というのがある。ほかに変わったことは、給食をたくさん食べるようになったことと、作文が書けるようになったこと。給食は、いつも残すことが多く、ぜんぶ食べられるのは、カレーのときぐらいだった。それが、ほとんどぜんぶ食べるようになり、おかわりまでするようになった。また、生活科の「わたしとかぞく」で手紙を書くときに、「なんて書けばいいの。」と、なかなか書けなかった発表者への手紙が、自分でさっさと書けるようになってきた。

保護者と話し合つて本人に伝えると決めたことは、次のことである。

- ・療育機関は、今までよくがんばって、できるようになったことがふえたので、卒業。
- ・療育機関は止めたけど、できるようになったことができなくなるのは、おかしなこと。
- ・○×は、これからも続けていく。
- ・○がたくさんあったら、お父さんもお母さんもうれしい。ご褒美もある。
- ・×がたくさんになったら、Aががんばっていないこと。お父さんもおこるし、ご褒美はなくなる。

ところが、○×は、ほとんど効果がなかった。それどころか、×がつくと、それまでだったら、次がんばると言っていたのが、「どうせ×があるもん。」と、やる気をなくしていく。後に、○×は、×を止めて△にし、がんばって○にしようと言ったことで少しは持ち直したが、以前のような効果は期待できなかった。

そんな中で、友だちとうまく遊べるときや、体育の時間にうまくかかわれるときに、落ち着きが出てきた。特に、縄跳びのときは、一人で跳ぶのははじめはできなくて、体育館の隅に行くことがあったが、家での練習の成果もあり、リズムを取りながら跳べるようになる、みんなと一緒にやりだした。長縄は、「跳べない」というので、大人と一緒にまわす役割をすることにした。そうしたら、隅にいて、寝転んだり別のことをするのがなくなった。ちょうどその時期に、たてわり班で大縄を跳ぶことがあった。同じ班の6年生に、「一緒に縄を回して。」と、頼んでおいた。6年生の子も無理に跳ばせることはせず、縄を回す番をして横に並んで手をつないでくれた。そして、自分が跳ぶときに、「一緒に跳ぼうか。」と、声をかけたら、すっと縄の中に入っていった。うまく跳ぶことはできなかったけど、それは、Aさんだけのことでなく、みんながなかなか跳べない。何度も繰り返して、まず1回跳べたときに、みんなが喜んだ。(ほかのチームがたくさん跳んでいても)。次からも、Aは、縄の中に入って跳べるようになった。

8、卒業式

3月になると、いよいよ卒業式の練習が始まった。Aさんが、長い式の間座ってられるか、心配だった。座席表を見て、教員席のほうに、1年生の子どもたちが多くなるように、2年生と入れ替えてもらった。そして、1年生の何人かの席を、1年生の中で入れ替えた。「どうして？」と聞く子どもたちに、「おしゃべりしないように。」と、答えた。それでなぜか納得してくれるかわいい子どもたち。練習の前に、どんなことをするのかを話した。全体練習の係の5年生が、今、何をしているのか、何をしたら終わりになるのかがよくわかるように、ひらがなで大きく式次第を書いて示してくれた。練習は順調だった。そして迎えた当日、たくさんの人に少し興奮気味だった。式の途中で、すっと立ち上がり、後ろのほうを見て、声を出した。注意に行こうと、腰を浮かしかけたそのときに、隣に座っていた子が、とんとんと肩をたたいて、自分の唇に人差し指を当てて、「静かに。」と、合図した。すると、Aさんは、静かに腰を下ろした。ほんの一瞬の出来事だった。

今、Aさんは、ときには「できない」と、言いながらすごしている。みんなと同じにできないこともある。でも、水曜日の放課後の姿を見ると、薬も療育機関に通うことも止めてよかったと思える。特別支援教育・個別の支援計画という理想的な教育のように思える言葉に、個人や家族だけの努力を求めているところはないだろうか。Aさんが見せてくれた姿に、そう感じる。

別紙

Aさんへの声かけについて

2008, 5, 7

1年担任 田畑

- 1、最初の説明のときに、
 - ・だまって聞く
 - ・途中でしゃべらない
 - ・わからなかったら、説明の後から質問するということを書いてから始める。
- 2、なるべく短く切って話す。
- 3、本人に1対1で話すときには、Aさんが主語になるような語尾にする。
指示語で言うときには、具体物も示しながら。
例) Aさんも、握力の検査をします。
例) この椅子に座って待ちます。(いすを見せながら。いすがたくさんあるときには、どれにすわってもいいのか、順番に座って動いていくのかも話す。)
- 4、「いやだ」「やりたくない」と言い出したときには、
「今日は、浜島小学校の全部の人が、・・・・をします。Aさんも、浜島小学校の1年生だから、・・・・をします。みんながします。」
と、例外は認められないような言い方をする。(泣くこともあるけど、しないままで終わらせないように。そして、できたら、泣いたけどがんばってやったということを褒める。することができたことを褒める。)
- 5、人のことが気になります。自分に注意されたことは、人のことも見ていて、注意しようとするし、結構しつこく言います。そんなときは、「一回でいいです。注意は、先生がします。」と、何度も言うのを止める。
- 6、たくさんの先生と出会う日になると思います。今日の声かけが、これからの基準になってくるので、言葉は丁寧に、でも、甘えは許されないということがわかるように声かけをして下さい。よかったときには、「それでいいよ。」という言葉もお願いします。
例) 1年生、上手にできたね。
例) 待っているとき、静かにできたね。など

※気のついたことがあれば、またあとから教えてください。

1年生の子どもたちへの声かけについて

2008, 9, 3

1年担任 田畑

1、最初の説明のときに、

- ・だまって聞く
- ・途中でしゃべらない
- ・わからなかったら、説明の後から質問する

ということを書いてから始める。

2、なるべく短く切って話す。

3、本人に1対1で話すときには、Aさんが主語になるような語尾にする。

4、走る順番や並び方を指示するとき、〇〇さんは、〇番。

〇〇さんは、〇さんの次。

と、名前を言いながら、具体的にお願いします。そして、休んでいる人がいるときには、「ここには〇〇さんがいるよ。」と、教えてやってください。また、休む人があると、この順番は、変わることもあると、今日の順番がぜったいではないことも、知らせておいてください。

Aさんは、できれば、1番前か、1年生の間に挟んでください。

特に、リレーなどは、横の人（一緒に走るメンバー）を確かめて、教えてやってください。

5、走ったりしているときの様子で、ふざけて見えるときがあります。（お母さんの言葉ですが、「もっとしっかり走らんか、と思った。本人は走つとるつもりなんか知らんけど。」）そんなときには、「一生懸命走れた？」ときいて、「腕を曲げて走るとかっこよく見えるよ。とか、今の走り方だと、力を抜いているように見えるから、こんな走り方をしよう。」と、具体的に走り方を知らせてください。特に、高学年にお願いしたいのは、ふざけているように見えても、いきなり怒らずに、こうやったほうが良いということを知らせるような対応をしてほしいということです。対応の仕方が分からないときには、子どもどうしで言わずに、大人（田畑・津田）にいうようにしてください。

6、人のことが気になります。遠く離れていても、大きな声で注意しようとしています。近くの人に、そっと注意するのはいいけど、大きな声で言ったり、何度も言うのは止めようと、1年生では言っています。「注意は、先生がします。」と。

7、前回もお願いしましたが、言葉は丁寧に、でも、甘えは許されないということがわかるように声かけをして下さい。不安そうに周りを見ることもあります。「それでいいよ。」という言葉もお願いします。

※気のついたことがあれば、またあとから教えてください。

別紙

名前		性別 (男)		年 組 番	
記入者 田畑美代子		記入月 2008年 6月 10月			
学 習 面	得意なこと・うまくできること 文字を書く 発表する 発表の内容が質問にすぐわな いことがある回数が減った 計算する	苦手なこと・教師が気になること 学習面では、全体での指示が理解できにくい。 津田さんが休みどきに、特に頻繁に声をかけ なくともできました。プリントなど、単純なことは できる。	教師の手立てと子どもの反応 (具体的事例もあれば記入してください) 学習中は、学習支援員が常に近くにいて、指示を伝え直したり、個別 指導を行っている。 わからないことを意思表示できるようになったので、分からないよう なときだけ説明している。 家庭では、学習内容を先行して学習。		
生 活 面	人を誘うこと 自分のおもったようにしたい ことで、誘ってもだめなとき は、独りになってしまう。	同年令の子と、うまく遊ぶことができない。遊 びのルールなど、わかりにくく大人がついて教 える必要あり。 ドッジボールについては、ルールの理解ができ てきた。 戦いごっこは、ルールが守れない。 給食も好き嫌いが多い。	遊びには、大人も入って、子どもたちのつなぎ役をし、本人にルールを 教えたり手をひいたりする。 大人は入らなくてもできるようになってきた。見ていることは必要。 給食については、今の段階では何も言わないと、保護者と話した。 そろそろ療育機関と相談しなければと思う。薬の副作用的なこともあ る。		
運 動 面	運動会の練習のとき、「やりた くない。」など言わなかった。	体を動かすことが全般に苦手。初めてのこのことな どは、「やりたくない。」と、言うことが多い。 2学期の体育は順調。	「つかれた」や「やりたくない」は言わないという約束。 大人がついて一緒にやるようにする。 2学期には、一緒にいたり、手を引いたりしなくてもできている。		
行 動 ・ 対 人 面	言葉遣いがわるいので、そのつど注意して直すようにしている。 友達呼び方 (よびすて) についても、保護者と連絡を取って、家でも学校でも注意していくことにした。 「友だちに注意しない」というルールを守れるようになる。 注意は減ってきているが、まだまだ多いし、授業中に集中できずにしゃべるし、周りにも迷惑。後ろの席にしてみたが、人が目に入りやすくなるので、 一番前の席に戻した。 大人に頼りがちなところを少しずつ減らせるようにしていく。				
そ の 他	2008年2月、広汎性発達障害の診断 病院・療育機関と連携をとりながら、学習中や友だちとのかわり方の約束を決め、チェックシートで守れているかどうかを確認していく。 保護者と共に、定期的に相談を続けていく。4月 6月 夏休みは、ほとんど療育機関に通っていた。				

☆ > < ☆ のおやくそく ☆

- ①ともだちに、ちゅういしません。
- ②「いやだ」「したくない」といいません。
- ③「つかれた」「もういやだ」といいません。

	日			火			水			木			金		
	月			火			水			木			金		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
あさのかい															
1げん目															
休みじかん															
2げん目															
なが休み															
3げん目															
休みじかん															
4げん目															
きゅうしょく															
ひる休み															
そうじ															
5げん目															
おわりのかい															
コメント															

☆ > < ☆ のおやくそく ☆

- ①ベンキョウ中、いすにぺたんとすわる。
- ②「ありがとう」「どうぞ」「ごめんなさい」をすぐにいう。
- ③手をあげてはっぴょうする。

◎はなまるめざしてがんばろう!!!

	日			日			日			日			日		
	月			火			水			木			金		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
あさのかい															
1げん目															
休みじかん															
2げん目															
なが休み															
3げん目															
休みじかん															
4げん目															
きゅうしょく															
ひる休み															
そうじ															
5げん目															
おわりのかい															
コメント															